

ふりがな	まるたに しょうはちろう		※2019年4月21日現在
氏名	<b>丸谷 正八郎</b>	年齢	64歳
所属 (政党・会派等)	無所属・市民クラブ	当選回数	4回
略歴	1955年1月 泉大津市若宮町に生まれる (旭小学校・東陽中学校・佐野工業高等学校卒業) (条南幼稚園・条南小学校・東陽中学校PTA会長歴任) 2001年 東陽中学校区地域教育協議会、会長) 2013年4月 泉大津市議会議員に初当選 (2003年度～2018年度迄、4期連続当選) 2011年度 泉大津市議会、議長に就任 2018年度 泉大津市議会、議会運営委員会、委員長		

**【設問1】 『青少年が夢を持って社会参画できるまち』**について、お聞かせください。

※<第4次泉大津市総合計画 施策2>「学びあうひとづくり 彩あるまちづくり」関連

(重要だと思うテーマ) ※30字以内
市外からの交流人口等とのふれあいによる青少年活動の場づくり
(自由記述欄) ※そう思う理由、考える施策の方向性等。句読点含め100字以上200字以下
泉大津市でも少子高齢化は進んでいる。人口は2040年には約64,900人となる見込です。特に子どもや働く世代が減り続けている。しかし泉大津市が魅力のある新規事業や企業誘致を行う事で、泉大津市に来て頂く交流人口や関係人口が増えます。その様な人々と市内の青少年が交流する事で、グローバルな感覚を身に付け市内外で社会貢献等にトライしたくなる環境を創っていきます。

**【設問2】 『市民とともにつくる災害に強い安全なまち』**について、お聞かせください。

※<施策4>「安心で心やすらぐまちづくり」関連

(重要だと思うテーマ) ※30字以内
地域がつながる「防災・減災」対策の取り組み
(自由記述欄) ※そう思う理由、考える施策の方向性等。句読点含め100字以上200字以下
災害発生時は自治会や自主防災組織の力が必要です。また各組織の連携が重要になって来ます。「自助・共助・公助」の役割を明確にします。共助はご近所や各自治会で担うため普段から連携した防災訓練が出来る仕組みを創っていきます。防災の取り組みには時間とお金が掛かるが、減災は皆さんが協力できれば素早い対応が出来ます。防災対策は勿論のこと減災力の向上を図ります。

**【設問3】 『誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり』**について、お聞かせください。

選択テーマ 1：子ども・子育て支援      2：地域福祉      3：高齢者福祉  
 4：障がい福祉      5：保健・医療

※＜施策3＞「誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり」関連

(重要だと思うテーマ)	※選択テーマからお選びいただきご記入ください。
地域福祉	
(自由記述欄)	※そう思う理由、考える施策の方向性等。句読点含め100字以上200字以下
<p>泉大津市において住宅及び医療・福祉・商業等の都市施設の立地適正化計画を推進します。様々な政策が都市施設の立地と上手く合致すれば、泉大津市は「本家コンパクトシティ」と言えると思います。その要素が、泉大津市にあります。子どもを育てやすい（保育園等）環境整備や高齢者の健康寿命対策と医療施設との連携体制の構築が重要と思います。</p>	

【設問4】 『人と企業が集まりアイデアと活気にあふれるまち』について、お聞かせください。

選択テーマ 1：地場産業の振興 2：湾岸ベイエリアの活用 3：ICT・AI化の推進  
4：その他

※＜施策6＞「誇れる・選ばれる・集えるまちづくり」関連

(重要だと思うテーマ)	※選択テーマからお選びいただきご記入ください。 その他の方は30字以下で記入
地場産業の振興	
(自由記述欄)	※そう思う理由、考える施策の方向性等。句読点含め100字以上200字以下
<p>創業・起業者が泉大津市内に開業しても、既存の事業所や商店が「閉店・廃業」をして行けば地域経済の活性化に繋がらない。両立してこそ地域経済が盛り上がりを見せてくる。互いに情報交換や交流を行い連携体制の強化を図り、共存可能な環境を創れば企業や人の交流から新しいアイデアが生まれ賑わいのあるまちになると考えます。</p>	

【設問5】 あなたが重要だと思う泉大津市における施策テーマについて、お聞かせください。

(任意記載項目)

(重要だと思うテーマ)	※30字以内
<私が取り組む『重要な5つの政策テーマ』について>	
(自由記述欄)	※そう思う理由、考える施策の方向性等。句読点含め100字以上200字以下
<p>①公共施設適正配置基本計画の推進 ②自然災害（地震・台風）の対策強化 ③子育て環境の整備と高齢者の健康増進 ④創業・起業支援体制の強化 ⑤行財政改革（AI活用等）の継続的な取り組み、以上5点であります。民間活力の導入や「官・民・学」の連携、地域とのパートナーシップで問題解決を図りながら、市政を前へ進めます。</p>	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。